



歯ッピィ～はせしか通信

発行/長谷川歯科医院 〒554-0002 大阪市此花区伝法2-4-19

TEL 06-6461-8211

FAX 06-6461-8311



コロナ禍により人々の生活様式が一変し、不自由な生活を強いられ、不安な状況が続いております。まだその終息のめども立たない中、長谷川歯科では、25回目の春を迎えることとなりました。

春といえば、私がまず一番最初に連想されるのは、卒業と入学です。そして、出会いと別れです。当医院でも、新しい道へチャレンジのため、また家庭の事情のため、残念ながら巣立って行くスタッフもおります。この方々には、長谷川歯科の医療に大変に貢献して頂き、感謝の気持ちで一杯です。また、退職する殆どのスタッフが当医院で働けて良かったと言って頂けたことに大変に嬉しく思いました。

また、新しい社会、新しい職場に希望を胸に膨らませて就職して来る多くのスタッフもいます。今期も歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士、保育士、事務など全ての役職で総勢で10名以上の新人スタッフが就職して参ります。この方々は、「すべては患者さまのために」「健康な人がより健康になれる」という私の目指す医院理念を理解して採用に至った人たちです。この時期 若い有望なスタッフ達を立派な医療人に育てなければならないというプレッシャーと期待感の入り混じる気の引き締まる時期でもあります。各部署、新人スタッフには、指導者を付け、しっかりと指導にあたります。来院された際に、その様な光景を目にされるかもしれませんね。

彼らが長谷川歯科医院で沢山の患者様を助けることができるだけにとどまらず、また将来的にも他の医療人にも良い影響力を発揮できる そんな医療人に育ってほしいです。

院長 長谷川 昌徳

歯とお口にまつわる歴史

デンタルヒストリア

外国人にとって不思議な習慣に見えた“お歯黒”

お歯黒の起源は古く、奈良時代に朝鮮半島から伝わり、平安時代には貴族階級から広がっていったそうです。歯を染めることは化粧の一種で、成人や既婚者であることを現していました。そんなお歯黒は、幕末から明治初期に来日した外国人の目には、もの珍しく不思議な習慣と映っていたようです。記録には、「お歯黒さえなければ、日本の女性はすばらしい」「黒く染めた歯は極めて痛ましい」などといった記述が残っています。髪や目の色が黒い日本人にとって黒は身近な色であり、粹な色。一方、外国人には黒は不吉なことを連想させる色として捉えられていたようです。

